

(4) 前年度の学校評価
ア 自己評価結果等

前年度の重点目標	①総合学科の特性を生かしたキャリア教育の充実と主体的に学ぶ力の育成 ②けじめある生活態度の育成と規範意識の醸成 ③人間関係能力の育成 ④国際理解教育の推進 ⑤安心・安全な教育環境の維持・向上 ⑥開かれた学校づくりの推進 ⑦教員の指導力向上とチームワークの強化		
担当分掌	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	①災害等に対する安全教育の確立 ②保護者との連携強化 ③コロナ禍に対応した行事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に対応した災害対策マニュアルを作成し災害時の対応を強化する。 ・避難訓練を年2回実施する。2回目の訓練では実地訓練を行い、職員や生徒の防災に対する意識を高める。 ・PTAとの連携を密にとり、学校行事およびPTA行事への積極的な参加を図る。また、学校評価アンケートの実施やPTA理事会を通して、学校運営の理解を図る。 ・総務担当の式典、集会、行事などの企画、運営は感染の状況を踏まえながら適切な対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策マニュアルについては、感染症予防対策も含めた自治体のマニュアルを参考に、見直しを進めなければならない。防災掲示板の更新は随時実施した。地震時の生徒引き渡しや緊急避難カードの更新は喫緊とする。 ・避難訓練については、昨年度の検証結果を生かすことができた。次年度は実地訓練の再考をしたい。 ・PTA行事は、感染症予防対策のため前期の事業の多くが中止となったが、後半は実施できた行事もあり、With コロナでの行事のありかたを今後も継続して考えていきたい。 ・保護者アンケートについては、いただいた意見を学校運営にいかんとして反映させていくかは大きな課題である。近年の回収率の減少傾向については今後の大きな課題としたい。 ・総務担当の式典、集会、行事などの企画、運営は感染の状況を踏まえながら適切に実施できた。
教務部	①「主体的・対話的で深い学び」をふまえた指導方法の実践と指導と評価の一体化を図る授業改善 ②校内業務の効率化及び改善	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価を中心に評価と授業改善が円滑に実施できるように、各種情報を教職員に伝達すると共に、学年・教科・分掌と連携して家庭学習の充実を図る。 ・校務支援システムの活用方法を検討するとともに、データ処理は複数チェック、庶務作業は分担することで学校全体の業務が滞ることがないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3観点評価については一定のルールのもと進めることができたが、改善すべき課題がいくつか見つかった。指導と評価の一体化を目指し、次年度に向けて、評価方法の振り返りと改善を学校全体として進めていきたい。 ・新しい校務支援システムの導入に関しては大きなトラブルもなく進められている。これまでになかった様々な機能もあるため、成績処理の運用方法と合わせて見直しをしていきたい。正確かつ効率的な成績処理をはじめ、教務に関わる業務の負担軽減に向けて、校務支援システムの有効活用を今後も工夫していきたい。
総合学科研究部	①キャリア教育と地域連携の充実 ②中学校体験入学・総合学科研究全国大会等における広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育において地域の方々や企業との連携を密にし、相互に協力して教育活動を展開する。 ・体験入学等を充実させ、総合学科の魅力と本校が独自に持つ魅力を地域の方々や近隣の中学校へアピールする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあっても主に「産業社会と人間」の分野で地域社会・地元企業との連携を果たし、生徒と学校外の人々の接点をつくって生徒の社会像・職業観の涵養をある程度実現できた。 ・体験入学・学校見学会等の機会を通じて、参加者数などから考えて例年と同程度には本校の魅力特徴の発信ができ、それに加えて総合学科研究全国大会でのオンライン発表もできた。
生徒指導部	①規範意識の確立 ②基本的な生活習慣の確立 ③安全意識の高揚 ④人権意識の啓発といじめの防止	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の求める高校生像を理解させ、社会への帰属意識を高め、規範遵守を奨励する。 ・食事、睡眠など、規則正しい生活習慣を継続的に送る。 ・交通ルールを理解し、自他の安全に対し日常的に配慮ができるようにすることで、無事故無違反を目指す。 ・自他の違いを認め、自他の命を尊重する精神を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が適切な身だしなみをして、落ち着いた生活を送ることができた。 ・多くの生徒は遅刻をしないで登校することができたが、一部寝坊などの理由で遅刻をする生徒がおり、今後の課題としたい。 ・自転車の事故件数は前年度と比べ、減少傾向ではない。自転車運転操作ミスからの怪我也あり、基本的な自転車運転能力の向上をさせることが、今後の課題のひとつである。 ・引き続き、多くの生徒がお互いに気持ちよく学校生活を送ることができるよう、啓蒙を続けていきたい。
進路指導部	①進路に関する情報の職員・生徒への周知徹底 ②模試結果・過去問の共有 ③キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学を取り巻く入試環境など、近年の入試状況の変貌を生徒及び職員に的確に伝える。新しく導入する求人票閲覧システムを活用し、円滑な就職指導を行う。また、新課程入試の情報をまとめ、職員・生徒へ周知を図る。 ・各生徒の模試結果・過去問データを職員誰もが共有できるよう校内LANシステムを活用し、教科指導に役立てる。 ・キャリア教育の一環として、インターシップを推進し、より多くの生徒が職場体験できるようPRに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学が主催する入試説明会に積極的に参加し、職員間で情報共有を図ることができた。また、求人票閲覧システムを導入したが、先方のシステム障害があり、スタートがうまく切れなかったが、システムが復旧してからは円滑に活用することができた。ただし、校内での処理に時間がかかったため、業務分担をしながら運用していくなど工夫が必要であると考えた。 ・模試分析を再開し、職員間で情報共有を図った。すべての学年で行えなかったため、次年度では今年度の反省を生かしつつ、すべての学年で資料を整えることができるよう準備していきたい。 ・夏季休業中に職場体験が企画されたが、コロナ感染状況が悪化したため、中止となったものがあつた。その中で実施していただいた企画については生徒が参加し、貴重な体験をすることができた。次年度ではより多くの生徒が参加するような働きかけの工夫が必要であると感ずる。
保健部	①感染症対策と予防の徹底 ②教育相談の充実 ③校内環境美化の整備 ④校務支援システムの運用	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ対策として新しい生活様式の定着を図る。生徒が主体的に感染予防対策に取り組む。 ・スクールカウンセラーと連携を図りながら担任も含めて相談に関わる生徒の対応に努めていく。 ・IKB（岩総をきれいにする美化委員）の活動の幅を広げて、校内の美化を今まで以上に進めていく。 ・校務支援システムについて、保健関係の運用を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍3年目をむかえ、状況に応じた対応が生徒主体でできるようになってきた。今後は、行事におけるコロナ対応をどこまで緩和していけるかが課題である。 ・相談件数は増えているが、日数・時間が変わらないこともあり余裕をもって対応することが難しくなってきた。今後は、担任、学年との連携をこれまで以上に図る必要があると感じた。 ・美化委員の協力もあり、昨年度に引き続き中庭にチューリップの球根を植えるなど環境整備に力を注ぐことができた。 ・新システムの運用については他校の状況を聞きながら取り組んでいきたい。

担当分掌	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
特別活動部	<p>①学校行事における内容の更なる精選とICTの活用を模索し、円滑な運営に努める。</p> <p>②コロナ対策に配慮しつつ地域ボランティア活動への積極的参加と充実を促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事前の計画と職員間の理解・連携を図り、ICTの活用を模索し情報発信に努める。 生徒の自主性を尊重しつつ的確なアドバイスを与える。 コロナ対策に配慮しつつ、生徒の地域ボランティア活動への関心を高め、参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事では内容精選を含め生徒の活動に指示やアドバイスにより円滑な運営ができた。10月の体育祭ではコロナ禍のなか衛生面に配慮して群団制を導入し4年目になるが、各群団が団結をし好評であった。また、岩高祭ではICTを活用して、クラス企画音響の使用・3年生舞台発表の配信・googlフォームでのアンケート等を試みた。技術的な問題も含め、今後さらに有効な手段を模索していきたい。 コロナ禍に配慮して地域ボランティアが再開され、多くの生徒が参加してくれた。また、募金活動や保健部と連携して花壇・プランター造りなど校内活動への積極的参加を促した。
図書部	<p>①学校図書館の機能向上と生徒の利用拡充</p> <p>②生徒の主体的、意欲的な読書活動や学習活動の推進</p> <p>③各種発行物の内容充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書や資料の精選及び管理、配架やレイアウトの工夫に努め、読書環境を整備する。 生徒の読書意欲の喚起と読書習慣形成に努め、読書活動の充実を図る。 文化講演会を通して、芸術・文化に対する理解を深める一助とする。 図書委員会による広報、読書感想文指導、「岩総50選」「図書館だより」などを通して読書活動を啓発する。 校誌「みどり」を、本年度が的確に後世に伝わる形で発行する 	<ul style="list-style-type: none"> 「図書館だより」の発行や、図書委員による蔵書管理ソフト「ノア」活用に向けての準備を行っている。また、例年通り読書会を行い、読書の楽しさを伝えるきっかけづくりができた。 生徒の希望にも応えて、新たに蔵書を増やし、図書室の充実を図った。図書室利用率や貸出し冊数も年々増加している。 校誌「みどり」第52号を、本年度の教育実践内容を盛り込んで編集することができた。